

夏休みの推せん図書(3・4年)

令和元年7月 杉教研学校図書館部

もうすぐ夏休み！！プールやお出かけもいいですが、長い休みにじっくり読書もどうですか？
おすすめの本がいっぱいあります。

「ドアのノブさん」

大久保 雨咲

講談社

山下さんと一緒に引っこすと思っていたドアの取っ手のノブさんは、おいていかれてショックを受けます。新しい家族が来ることになってもなかなか受け入れられず…。そのほか、本棚の後ろに落ちたボタンや安全ピン、クリップ、木のはへんやよごれたくつ下の話のっています。身近にある小さなものは、意外なことを考えているかもしれませんよ。

「モーモー村のおくりもの」

堀米 薫

文研出版

モーモー村の本当の名前は「百々谷村」。人より牛の数が多いため、「モーモー村」と呼ばれている。その村へお母さんをなくした美咲が獣医のお父さんといっしょにやってきた。ひっこみじあんの美咲が自然と人々の優しさで成長する物語。

「あそびうたするものよっといで」

中脇 初枝編

福音館書店

さそいうた、てあそびうた、かぞえうた、早口うた、えかきうた、うらないうた、さよならうた…。日本で受け継がれてきたあそびうたがたくさん。

低学年の子からあそべるうたがいっぱい。子供だけでなく、大人も一緒にあそびうたを楽しめる本。

「えほん東京」

小林 豊

ポプラ社

おじいちゃんといっしょに出かけた東京は、いつもの街となんだか違う…。タイムスリップした昔の東京の風景を歩くと、今と昔が重なりあっていました。震災や戦争を乗り越えた記憶、今につながる様々な場面を日本画家の作者が温かく描いています。巻末には地図付きの解説もあります。本に出てきた場面を実際に歩き、東京の今と昔を知る旅に出るのもいいですよ。

「ハートウッドホテル1」

ねずみのモナと秘密のドア」

ケイリー・ジョージ

童心社

ネズミの女の子、モナはずっと1人ぼっちだった。ある嵐の夜、モナは森の中で巨大な木をみつけて、その幹についていた秘密のドアをあけると…。そこは動物たちのホテルになっていたのだった。モナは、はじめて1人ぼっちではなくなったのだった。

「フシギなさかな ヒメタツのひみつ」

尾崎 たまき

新日本出版社

長い顔にストローのような口。まるで宇宙からきた生き物みたい。その名はヒメタツ。タツノオトシゴの新しい仲間です。

実はこのヒメタツ、たまごを産むのはお父さんなのである。一体どのようにして、お父さんがたまごを産むのだろうか。

その他のおすすめの本

本の名前	著者名	出版社
作り直し屋 十年屋と魔法街の住人たち	廣嶋 玲子	静山社
魔女が相棒？ねぐぜのヤマネ姫	柏葉 幸子	理論社
俳句ガール	堀 直子	小峰書店
ようこそ！葉っぱ科学館	多田 多恵子	少年写真新聞社
めぐみの森	藤原 幸一	新日本出版社
ぼくはきみで きみはぼく	ルース・クラウド	偕成社
ソラマメばあさんをおいかけろ	たかどの ほうこ	文化出版局
ぼくはアフリカにすむキリンといえます	岩佐 めぐみ	偕成社
風のヒルクライム ぼくらの自転車ロードレース	加部 鈴子	岩崎書店
願いがかなうふしぎな日記	本田 有明	PHP研究所